

麟徳記 中

庫	文	閣	内
五九	三五	八九	和
函	冊	號	書
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 35890
冊數	3 (2)
函號	159 117

史
四
七



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



麟徳記中

一 宝曆三月子七月左衛門尉於色換永心為氣
の依而沙隠也難い其也 出る所は後ハ
也難いなり

玄著既於後換は 作らるり八月
左衛門尉と出る所改換ハ其也 ありし也
此事の事ありし所心と字も也なり 絶
しるは 結さ 痛く ぬき 具も 也なり
沙に 惠と 先と 作らるり 色 文武業 盛なり

一 河内守の移る津教訓をねむる子海
山宗茂の遺言に才一仁惠を以て百年の神徳
をたむるに海を渡るは道に九折ありて
此思ふ身逐一に下れば海を
宗直卿清徳孫の御得志の事と津感好ハ
これを行はる元

宗直卿の既子宗直の遺言に海を渡るは
道に九折ありて我等の子もこれ
おきてはると其の津福を遊ばす

一 栗原宗軒の形邑抄の二葉の河内守の葉

其の基抄は其意者或河内守の津抄の事

依て市川に之方日し中尾岩形邑抄の
中尾岩

子も大津よる石津大津此方も之を

監物抄形邑抄の筆
室曆之字八月山守右山守ありて形邑抄

にありて河内守宗直長り河内守あり

監物抄にありて河内守一は待て下りの事あり

山守右の河内守ありて河内守宗直長り河内守あり

ありて河内守一は待て下りの事あり

おりのまゝに内しそ印しと
岩史を流をぬ出入せし
右の癖やどしうまの河系河ん
外が柵門のぬりとぬく
汁のぬえるゆ半虎口一ぬあ
せぬれとまの河系ぬぬぬ
思入るまゆ河のぬぬぬ
ししし

の事にお止

一に戦紀聞と江戸忠義
あしそぬぬぬぬぬぬぬ
関控年 田原の
とぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
りぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
思入何年ぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

形感場より来る一葉て此徳を
人々何は畏る所しりとも

宗直卿の遊去の海は終り此徳あり

宗直の室屋を以て遊去あり
於此の所より遊去するあり

宗直の所より遊去するあり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

此の徳あり
此の徳あり

今日此世をよ何の方を鉄炮と并ぶ事
不方不可越り可也 彼等も此を念持ふは
あの方を鉄炮とてとらるべし此等も
此目有るの如く下流を走らざるの
かておきて之もあつてあつてあつて
あつて先と潰れとつてあつて
これおき見られはささの清きなり
一 此等年のふくまふ文可はるると重裕
徳の
一六の會おき此等書讀む

等も自由におもふは川島自花の
一 此等文甚進々甚定中へ川島
し信の京都へ松子とて楚辭の副
下と出版は 後自花の如くして
其あつてこの世の事は時とて
く月と法書の如くしてし
み居りて此等書もあつて
義高次 雅志 此等書もあつて
此等書もあつて

忘れお氣に成り大方多氣の山並み多
不氣志心もあき船に州とこ定座の舟
年の比越る水船年まきさ商人足折うま
まて山医脚お月山産所は又は白月
見を中出れるふよあき海したあ月よ
お脚の舟に成りと友知まにけりも友
只高へと大切はけりし山まきと山
脚たへは心よものこ

一 山と智者路本要山位者物と山清屋

入る梅林の辺山分けの木端の葉
小き木の葉押しく山登へ掛りたれハ
何ともしや上は登へ掛りくる鶴の草を
おてるるさる山法よまき山系まきの
秋一方と葉勿心とやさひきん若く友
影とん白眼月とまき山境て路本
山向何と山位者とまきの山系まきの
あき秋も天窓へ葉内りまき山系まきの
下も山の井りもまき山系まきの

何来只に後を以て止すと
一中小姓河来子癖の河を風流を
也流人も中上流を河解流の文江川
又此も此紀 後月河世評の如く
一か此中流の如く
上流在りて中流に
河来子も是より流るる中流に
多力知る者も此を流るる中流に
一か此中流の如く

一と親兄弟親族をも河を流るる
多者多の如く 中流に
一か此中流の如く

一河和丸衣年の以也 中流に
此流先んじて自然なるもの
ホの流上中流難流るる中流に
也流流又中流流るる中流に
る右なりとも自然なる中流に
お流るる中流に

隔りたるを去るべし 此後終身 印と目書
お纏うとぬれぬ事下りき 此出山平山換
の取一山入此山書

一 安永三年の九月中の事 四書 釋教
此月より此山平の事 子代おとむと此山
結ぶ此山 聽聞は此山 此山 此山
清教の事 此山 此山 此山 此山
考知とまて此山 此山 此山

一 宝曆五年の此山 此山 此山 此山

此山 此山 此山 此山 此山 此山
此山 此山 此山 此山 此山 此山
此山 此山 此山 此山 此山 此山

一 此山 此山 此山 此山 此山 此山
此山 此山 此山 此山 此山 此山
此山 此山 此山 此山 此山 此山

者又さくらん此後より下をたのむる人言
少くつて念ふと下よりおまふ

一 明和の申の曾の傳の号清忠の号は
中二帝同後稱すよ中一祖とあふ
るよ天の結核しをさすも知と氣
親先祖とあふよハ好生の好嫌ともあ
正友天とあふよハ好生とあふよハ
傳人年之後 帝意をたのむる人言
宗好郷濟事ハ正法在宗也孫孫加

一 此位解也其道も其好く上階真也院
心好重なり一 只今のの一階乃理通也
思ふよ別不日ハ此位解也其道ハ其重
一 或時此意ハ曾ハ此位ハ其好く下全所
此本も此大也者ハ此位ハ其好く下全所
此随ハ其好く下全所ハ其好く下全所
此本も此軍法也ハ其好く下全所
毒甲也ハ其好く下全所ハ其好く下全所

此年家之流乞ふに宋中より北遊を遊
甚也石具は外之事と嘆くを遊す
えん自分持名のみを嘆くは北の六ヶ
月之事や河よりさそはるるにさき
吹かぬ及熱を軍兵とてそのの進退
先におうとて自ら待利の道に
河として兼勝しえりまの已後新報と
會得せりして何そ軍は待利と持

事 又右の事と右の事と
中あつた流る吹かぬ及るるにさき
の事公の流る吹かぬ及るるにさき
内言ふこと

一室曆の事 中 也 城也地也寺也
るる入りの流る吹かぬ及るるにさき
言ふもや流る吹かぬ及るるにさき
よりの事と河も流る吹かぬ及るるにさき
此を流る吹かぬ及るるにさき

此後先とて出来出知、懐き者の言を水
如く主人とて大切を存下りしと侍衆を
おしゆりて、いよいよき志の者なる
也、月夜に、いさしき暇に、中入小者、
此も此後先、いさしき事、いさしき事、
合点おらぬ、いさしき事、いさしき事、
一、此後先、いさしき事、いさしき事、
純懐の代り、いさしき事、いさしき事、
いさしき事、いさしき事、いさしき事、
いさしき事、いさしき事、いさしき事、

只紗綾懐と、いさしき事、いさしき事、
方洋定り、いさしき事、いさしき事、
紗綾の懐との、いさしき事、いさしき事、
川崎智を、いさしき事、いさしき事、

以上續言行傳

一、此後先、いさしき事、いさしき事、
之武備才と、いさしき事、いさしき事、
若くは、いさしき事、いさしき事、
宿願、いさしき事、いさしき事、

目利何り侍元手生ん研乞て事ハ
少事ニ良刀と事一ト吐く者ハ計
今日入津流中風少飲りめらるる此書
の解り姓石と事尊也歴又兼亦刀
也尊と事れも人志ハ既而自と事いぬ
流に流士一統ニお初まおのつらんけ
之と事いぬと事武流少流を以流物
と事と事るた徳上事風と事と流者
也事皇の刀剣ハ何也も良心と事しと

兼刀ハ稀なり也

一同一也的と事夜の長ハ事者元、石時
過る酒者と事下事又ハ叔浩の老元ハ
拍撲力競ハ亦ハ、事聲ト事人ト事
也事捕可事如事、事ハ也事思事
事臨ハ也事遠事、事也事、事
何事能事失事、事、事上事
也事價事、事、事、事
也事同事、事、事、事

一 浮蓮を河原にまき入魂を毎々
も公或時を河原に火防の家
浮蓮の志自にれるかかれば美くも法
とぬらるる抱く清き子はその者も兼に
山崎しきりてを河のうらみなり
しものふり知夕方る備は法に
其色中んわさるる法に
徳とて道とくする
河原知ををたわするは
河原知ををたわするは

たを只方るは貴に
おはるる
おはるる
金の丸に
大徳と
右徳と
火防と
知中く
成業と
是を

今更之由が馬の希一是より二里程の處を
行成りたる人しきりてりりれぬ様は
行ひとぬく事有らる者らひ其元
由未だともいひ終のる様因もい
たすはたひの月夕のるもいして由
此の向痛由自ら上縁と計上申へ由希
しとて西國邊續き不ひ火のそゆと
見物見たりやありては移りれ
る高ふらぬのよと由希ひありし

を別と終也念ふと徳と治りしと
は舟も所外接接んはるは右左所
村候は甚人外の人言家牛の治りも終
上意者も多ふは法炮の一も多
當所は流るるは法炮ありは平左衛門
のいしは終り古より
一或は此所初と由ぬけは由を
此邊の所は初と由ぬけは由を
自ら終り是方の所ありてなり

新本より右方ゆへハ別の記を以て建てる也右
の記も亦書くは流りて重なりて山懸にハハ
極右の用はそとて是も極右の記の記也
山と記り方変了の年にて此も也ハ若
男古より馬刀業は流りて此も也ハ若
女は此記の記と昔巴山流りて此も也ハ若
是も亦流りて此も也ハ若の記也ハ若
女も此記の記と昔巴山流りて此も也ハ若
定てんてハ流りて此も也ハ若の記也ハ若

河のり新く見よけるはて見よけるは
とてあし此も也ハ若の記也ハ若
流りて此も也ハ若の記也ハ若
とてあし

一 乃て此記の命ハ若ハ流りて此も也ハ若
中三物也此記の記也ハ若の記也ハ若
此命也此記の記也ハ若の記也ハ若
命も此記の記也ハ若の記也ハ若
此記の記也ハ若の記也ハ若
此記の記也ハ若の記也ハ若

人...の...好...
大...
...

以上 堀内氏 筆記

麟 瀧 記 中 終

